# 法政大学学術機関リポジトリ

## HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-15

## 原伸子教授 経歴 研究業績

```
(出版者 / Publisher)
法政大学経済学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)
The Hosei University Economic Review / 経済志林
(巻 / Volume)
89
(号 / Number)
3
(開始ページ / Start Page)
9
(終了ページ / End Page)
16
(発行年 / Year)
2022-03-25
```

### 原 伸子教授 経歷 • 研究業績

#### 学 歴

1970年4月 佐賀大学経済学部経済学科入学

1974年3月 佐賀大学経済学部経済学科卒業

1975年4月 九州大学大学院経済学研究科修士課程入学

1977年3月 同上 修了

1977年4月 九州大学大学院経済学研究科博士課程入学

1980年3月 同上 単位取得退学

#### 職歴

1980年4月~1981年3月 九州大学経済学部助手

1981年4月~1982年3月 法政大学経済学部特別研究助手

1982年4月~1989年3月 法政大学経済学部助教授

1989年4月~2022年3月 法政大学経済学部教授(「経済原論」担当)

1983年9月1日~9月30日 ソ連科学アカデミー東洋学研究所交換研究員

1990年4月~1992年3月 ベルリン自由大学政治学部客員研究員

1997年4月~1998年3月 ケンブリッジ大学経済学部客員研究員

2004年9月~2005年8月 ケンブリッジ大学経済学部客員研究員

ケンブリッジ大学クレアホール客員フェロー(ラ

イフメンバー、現在に至る)

#### 「学内の他の職歴〕

2001年4月~2003年3月 法政大学比較経済研究所専任研究員

2008年4月~2010年3月 法政大学多摩学生センター長

2011年4月~2012年3月 法政大学大原社会問題研究所副所長

2012年4月~2016年3月 同上 所長

2016年4月~2018年3月 同上 副所長

#### [学外の他の職歴]

2007年4月~2016年9月 聖心女子大学教育学部・総合現代教養学部非常勤 講師

2012年4月~2013年3月 一橋大学経済研究所・非常勤研究員

#### 学会活動

- 経済理論学会(1980年~、2001年~2003年度・幹事)
- 経済学史学会(1980年~)
- 社会政策学会(1997年~)
- ・日本フェミニスト経済学会(2004年~, 2004年~2007年度・幹事)
- 国際フェミニスト経済学会(2004年~)

#### 研究業績

- 1. 著書
- ・(単著)『ジェンダーの政治経済学ー福祉国家・市場・家族』(有斐閣, 2016)
- ・(共著)『シンポジウム 「資本論」成立史をめぐる諸問題』(新評論, 1989)
- (共著)『資本論体系 第一巻』(有斐閣, 1994)
- ・(共著)『市場経済の神話とその変革』(法政大学出版局, 2003)
- (共編著)『市場とジェンダー』(法政大学出版局, 2005)
- ・(共著)『現代経済と経済学〔新版〕』(有斐閣, 2007) (『現代経済と経済学』「初版」は1997年刊行)
- ・(共編著)『福祉国家と家族』(法政大学出版局, 2012)
- ・(共編著)『現代社会と子どもの貧困一福祉・労働の視点から』(大月書店, 2015)
- (共訳) ア・ユ・チェプレンコ『現代『資本論』論争―イギリス・西ドイツ・日本』
   (A. Ю・Чепуренко, Идейная борьба вокруг 《Капитал а》 сегодня) (大月書店, 1989)
- (共訳) ダンカン・フォーリー『資本論を理解する―マルクスの経済理論』
   (Duncan K. Foley, *Understanding Capital, Money, Accumulation and Crisis*)
   (法政大学出版局, 1990)
- ・(共訳) カール・マルクス『マルクス資本論草稿集9』(Karl Marx, Zur Kritik

- der Politischen Ökonomie (Manusukript 1861-63). Teil 16) (大月書店, 1994)
- ・(共訳) スティーブ・フリートウッド 『ハイエクのポリティカル・エコノミー 秩序の社会経済学』 (Steve Freetwood, Hayek's *Political Economy*) (法政大 学出版局, 2006)
- (共訳) ジェーン・ハンフリーズ『イギリス産業革命期の子どもと労働―労働者の自伝から』(Jane Humphries, Childhood and Child Labour in the British Industrial Revolution) (法政大学出版局, 2022)

#### 2. 論文, 翻訳

- ・(共著)「マルクス『経済学手稿(1861-63年)』における剰余価値論 『マルクス・エンゲルス著作集』ロシア語第二版,第47巻によせて一」『産業労働研究所報』(九州大学産業労働研究所),70/71,1-38,1978。
- ・(単著)「『経済学手稿(1861-63年)』における「貨幣の資本への転化」」(九州 大学大学院『経済論究』44,69-107,1979。
- ・(単著)「資本蓄積論と労賃論との連係にかんする一考察」九州大学経済学部 『経済学研究』45/3,55-80,1979。
- ・(単著)「『1861-63年草稿』における資本蓄積論―MEGA.2/3.6について」『経済志林』50 (3・4), 299-316, 1983。
- (単著) 〔文献紹介〕 "Der zweite Entwurf des "Kapitals" Analysen, Aspecte, Arguments" 『経済学史学会年報』 22, 100-105, 1984。
- ・(単著)「『資本論』草稿としての「1861-63年草稿について(1)」『経済志林』 51(4)1984。
- (単著)「ドイツにおけるレギュラシオン理論の批判的展開 (1): K.ヒュープナーの "Theorie der Regulation" によせて」『経済志林』59 (3) 21-60, 1991。
- ・(単著) 翻訳「『資本論』第3巻における恐慌論の理論的位置について」 (Michael Heinrich, "Der theoretische Status der Krisentheorie im 3. Band des Kapitals")『マルクス・エンゲルス,マルクス主義研究』(マルクス・エン ゲルス研究者の会), 23/24, 96-113, 1995。
- ・(単著) 翻訳「カール・マルクス経済学遺稿の歴史的・批判的分析について」 (Vitalij Vygodskiy, "Zur historisch-kritischen Analyse des ökonomischen

- Nachlasses von Karl Marx")『マルクス・エンゲルス, マルクス主義研究』(マルクス・エンゲルス研究者の会)25、23-32、1995。
- ・(単著)(翻訳・解説)「トニー・ローソン『現代経済学再考の必要性について:形式主義的モデル分析から現実的社会分析へ』『経済セミナー』(日本評論社)(559),30-37,2001。
- ・(単著)「市場と家族再考(1)」『経済志林』(法政大学経済学会),69(3), 259-304 2001。
- (単著) "Rethinking Market and Family", Journal of International Economic Studies, 18, 91-102, 2004.
- (共著) "The Place of Care in Modern Economics", Mimeo, Cambridge University 2005
- (単著) "Care in Feminist Economics", 『経済志林』(法政大学経済学会) 73 (4), 513-532, 2006。
- (単著) "Gender Budget and Care: Macroeconmic Analysis from the Gender Perspective",『経済志林』(法政大学経済学会) 74 (1•2), 2006。
- (単著) "Towards a Political Economy of Care", *Journal of International Economic Studies*, 21, 17-31, 2007.
- ・(単著)「Robert Bosch Stiftung, *Unternehmen Familie*, 2006.―ドイツにおける家族政策の新たな展開」『経済志林』(法政大学経済学会)75(3), 100-120, 2008。
- ・(単著)「福祉国家と家族政策の「主流」化一ワーク・ライフ・バランスの論理とジェンダー平等|『大原社会問題研究所雑誌』(594), 1-18, 2008。
- ・(単著)「福祉国家の「変容」と「ワーク・ライフ・バランス」の論理―雇用・ 家族・ジェンダー」『季刊経済理論』45(4), 45-56, 2009。
- ・(単著)「ワーク・ライフ・バランス論の概念再考—欧米の経験から」『女性労働研究』(53), 85-95, 2009。
- ・(単著)「ワーク・ライフ・バランス政策の論理―批判的考察―」『経済志林』 (法政大学経済学会),788(4),165-194,2011。
- ・(単著)「福祉国家の変容と子どもの貧困一労働のフレキシビリティとケア」 『大原社会問題研究所雑誌』(649), 30-46, 2012。
- ・(単著)「福祉国家の変容と社会的ケア―雇用・家族・ジェンダー」『季刊経済

- 理論』47 (3), 31-40, 2013。
- ・(単著)「福祉国家の変容と家族政策—雇用・ケア・ジェンダー』『経済科学通信』133,55-60,2013。
- ・(単著)「【特集】新自由主義とジェンダー平等:政治学の視点から特集にあたって」『大原社会問題研究所雑誌』(683・684), 1-6, 2015。
- (単著) "Unpaid Labour and the Critique of Political Economy in Home Economics and New Household Economics: From the Feminist Economics Perspective", *The History of Economic Thought*, 58 (1) 1-20, 2016.
- (単著) 「社会的投資アプローチとジェンダー平等一批判的考察」 『大原社会問題研究所雑誌』 (695/696), 2-18, 2016。
- (単著)「経済をジェンダーの視点から考える―フェミニスト経済学とケアの 視点 | 『We Learn (ウィラーン)』 (759), 4-7, 2017。
- ・(単著)「両大戦間期イギリスにおける家族手当構想と福祉国家の起源」科学研究費助成事業成果報告書, 1-6, 2017/6。
- ・(単著)「福祉国家の変容とケアの市場化」社会政策学会編『社会政策』(ミネルヴァ書房) 9 (3), 44-61, 2018。
- ・(単著)(翻訳)メアリー・デイリ著「EUにおける子どもの貧困問題」『大原 社会問題研究所雑誌』(711), 6-18, 2018。
- ・(単著)「【特集】子どもの貧困を問う一日本とEUの経験から 特集にあたって」『大原社会問題研究所雑誌』(711), 1-5,2018。
- ・(単著)「【特集】福祉の契約主義と労働・家族・ジェンダー 特集にあたって」『大原社会問題研究所雑誌』(716), 1-3.2018。
- (単著)「イギリスにおける福祉改革と家族―『困難を抱えた家族プログラム (Troubled Families Programme』とジェンダー」『大原社会問題研究所雑誌』 (716), 21-41, 2018。
- ・(単著)「ケアの理論と政策:保育の市場化批判」『立教経済学研究』73(3), 1-25, 2020。
- ・(単著)「教育の市場化と人的資本論―「教育改革」を支える新古典派経済学 批判」『経済産業と教育』14-22,2021。
- ・(単著)「【特集】イギリス工業化社会における労働者階級家族と子どもたち」 『大原社会問題研究所雑誌』(748),1-6, 2021。

- (単著)「エンゲルス『起源』の「二つの生産」と労働者階級家族」『大原社会問題研究所雑誌』 (748), 7-20, 2021。
- ・法政大学大原社会問題研究所篇『日本労働年鑑』「世界の経済」の項目執筆 (2011年度~2017年度)

#### 3. 書評・エッセイなど

- ・(書評)「内田弘著『中期マルクスの経済学批判』」『専修大学社会科学研究所 月報』(272),31-40,1986。
- ・(書評)「W.シュヴァルツ著, 時永淑・大山均訳『資本論体系の成立』」『法政』 20-22, 1986。
- ・(書評)「吉田文和著『マルクス機械論の形成』」『土地制度史学』(土地制度史学会)(120),80-84,1986.
- ・(エッセイ)「湾岸戦争―ドイツにおける知識人の対応」経済理論学会編『湾 岸戦争を問う』66-67, 1991。
- ・(単著)「(書評) 竹永進編『ルービンとその批判者たち 1920年代ソ連の価値 論論争』」『経済志林』(法政大学経済学会) 68 (2), 319-332, 2000。
- ・(書評)「大沢真理編『福祉国家とジェンダー』」『季刊経済理論』42 (2), 112-114, 2005。
- ・(書評)「二宮厚著『ジェンダー平等の経済学』」『季刊経済理論』44(3),90-92,2007。
- ・(座談会)「サルコジのフランスはどこに行く―長部重康著『現代フランスの 病理解剖』(2006)を巡って(出席者:長部重康・宮島喬・大野博人・<u>原伸</u> 子・萩原進)『経済志林』75(2),107-191。
- ・(書評)「書評りぷらい ジェンダーの政治経済学」『社会福祉学』57 (4), 153-155, 2016。
- (書評)「Jane Humphries, *Childhood and Child Labour in the British Industrial Revolution*」『大原社会問題研究所雜誌』(651), 65-71, 2013。
- ・(書評)「中川スミ著『資本主義と女性労働』」九州大学経済学会『同窓会報』 (58)、16-17 2015。
- ・(書評) アーリー・ラッセル・ホックシールド著,坂口緑・中野聡子・両角道 代訳『タイム・バインド《時間の板挟み状態》働く母親のワーク・ライフ・

- バランス:仕事・家庭・子どもをめぐる真実』『大原社会問題研究所雑誌』 (681) 81-86, 2015。
- ・(講演・執筆)「本当に女性の輝ける社会になる?~働き方改革関連法を学ぶ~」第19回まちだ男女平等フェスティバル,2019年2月3日主催。

#### 4. 学会報告

- ・(単独報告)「『資本論』体系の成立-『1861-63年草稿』における剰余価値 論」経済理論学会第28回全国大会,関東学院大学,1980/10。
- ・(単独報告)「1861-63年草稿における『資本論』第1部草稿と第3部草稿との関連について」1983年度経済学史学会全国大会,広島大学,1983/11/12。
- ・(単独報告)「経済学批判とジェンダー」経済理論学会第49回全国大会,駒沢大学,2001/10/20。
- ・(単独報告)「ケアの政治経済学とジェンダー」経済理論学会第53回大会,大東文化大学,2005/10/20。
- ・(単独報告)「福祉国家の変容とドイツにおける家族政策のパラダイム転換」 経済理論学会第55回全国大会,横浜国立大学,2007/10/20。
- (単独報告) "Work-Life Balance in Japan from the Gender Perspective: A Critical Assessment", The 19th Conference of International Association for Feminist Economics, Buenos Aires, Argentine, 2010/07/23.
- ・(単独報告)「福祉国家の変容と家族政策―ワーク・ライフ・バランス政策の 論理」一橋大学共同研究地点・共同利用プロジェクト『持続可能な福祉国家 の歴史的・理論的研究』研究報告,立命館大学,2012/02/04。
- ・(単独報告)「ワーク・ライフ・バランス政策の論理について」経済理論学会 第60回全国大会、摂南大学、2012/10/26。
- ・(招待講演)「福祉国家の変容と家族政策―雇用・家族・ジェンダー」基礎経済科学研究所第36回研究大会,京都府立大学,2013/09/14。
- ・(単独報告・パネリスト)「フェミニスト経済学の展開―無償労働からケアへ」 経済学史学会第78回全国大会(共通論題),立教大学,2014/05/24。
- ・(単独報告)「労働のフレキシビリティとケア:働く女性の「タイムバインド」 と子どもの貧困」経済理論学会第62回全国大会,一橋大学,2014/10/25。
- (単独報告) "Flexible Work, Deficiency of Care and Child Poverty: A Critical

- Assessment of Gender Equality in Japan ", The 24th Annual Conference, International Association for Feminist Economics, Berlin, Germany, 2015/07/16.
- (単独報告) "Flexible Work, Child Care Policy and Gender Equality: A Critical Assessment of 'Making Women Active and Promotion Plan' in Japan", The 25th Annual Conference, International Association for Feminist Economics, Galway, Ireland, 2016/06/25
- ・(単独報告・パネリスト)「福祉国家の変容とケアの市場化―イギリスにおける保育政策の展開とジェンダー平等」2017年度社会政策学会全国大会(共通論題),明星大学,2017/06/03。
- (単独報告) "Child Poverty and Single Mothers: A Critical Assessment of Child Care and Gender Equality in Japan", The 27th Annual Conference, International Association for Feminist Economics, New York, US, 2018/06/20.
- (単独報告) "Marketization of Childcare, Deregulation of Labour Market, and 'Making Women Active and Promotion Plan': Critical Assessment of Gender Equality in Japan", The 28<sup>th</sup> Annual Conference, International Association for Feminist Economics, Glasgow Caledonian University, Glasgow, UK. 2019/06/29.
- (単独報告・招待報告) "Dual Deregulation of Labour and Childcare and Gender Equality in Japan", International Symposium, *Culture, Class, Connection*, (国際シンポジウム, 学習院大学, ロンドン大学, マンチェスター大学, ニューキャッスル大学共同開催), 2021年9月24日。